

「人生一〇〇年時代」における学び

岡山県教育庁生涯学習課長

栗 原 宏 之



日本の総人口は二〇〇八年の約一億二、八〇〇万人をピークに減少へ転じており、出生率が現状のままであれば、二〇五〇年頃には一億人を下回ることも予測されています。これは単純に数だけで言えば、中国・四国・九州・沖縄の一七県すべての人口がいなくなる規模の人口減です。その後も我が国の総人口は更に減っていくことは避けられない模様で、人口減少対策総合研究所理事長の河合雅司氏によると、こんなに急激な人口減少は世界史において類例がなく、私たちは長い歴史の中で極めて特異な時代に生きているとのことです。

一方で、国民の平均寿命は飛躍的に延びてきており、内閣府が示す資料では、二〇五〇年には女性の平均寿命が九〇年を超える見通しで、一九五〇年と比べ、男性とともに平均寿命が一・五倍近く延びると予想されています。また、ある海外の研究では、二〇〇七年に日本で生まれた子供の半数が一〇七歳より長く生きると推計されており、我が国は世界のどの国も経験したことのない超高齢社会を迎えようとしています。

こうした少子化による人口減少や急速な

高齢化、また、グローバル化、ソサエティ5.0など、予測困難なこれからの社会においては、生涯を通じて、いつでも主体的に学び続けるという生涯学習の考え方が重要となります。そして、持続可能な社会の実現に向けて、誰もが自由に学べ、その成果が個人の中にとどまらず、社会に生かされる、つまり、積極的に地域社会に参加・参画し「社会のつくり手」となる、そうした学習環境づくりが、今の時代において益々重要性を増してきていると言えます。

同時に、人生一〇〇年時代を迎える私たち一人ひとりが、長い人生をより豊かで充実したものにするためには、社会に出るまでの十数年間の学校教育で学びを終えるのではなく、その先、社会人になってからの社会教育、文化・スポーツ活動、ボランティア活動、企業内教育、趣味など様々な場や機会において行う学習や経験が大切であることは明白です。これからの未来を生きる子供たちには、是非、そうした生涯を通じて学ぶ姿勢を身につけてもらいたいと願っています。